



「麻布未来写真館」

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成25年度 活動報告
港区麻布地区総合支所

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成 25 年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

I. 分科会活動の概要	01
「麻布未来写真館」とは	01
パネル展の開催	02
II. 分科会メンバー作成パネルの紹介	05
パネルの作成	05
III. これまでの活動を振り返って	32
メンバーのことば	32
IV. 参考資料	35

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、又は麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成 26 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区版基本計画策定」・「地域情報の発信」・「協働事業提案制度」の 4 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

I 分科会活動の概要

麻布未来館写真とは

麻布未来写真館事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 25 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施し、3 会期に分けてパネル展を開催しました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 26 年 3 月 1 日現在）

天羽 大器、荒澤 経子、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、
櫻井 綾、鈴木 順二、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子

パネル展の開催

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでに引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から5か年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方々から、写真等のご提供、多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を3期にわたり、延べ5会場で開催しました。

また、常設の展示として、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース及び港区麻布地区総合支所2階の区民協働スペース脇の通路での展示を行いました。

パネル展スケジュール

◆第1期パネル展

日時：平成26年2月7日（金）～2月20日（木）10:00～19:00
会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

◆第2期パネル展

日時：平成26年2月17日（月）～2月28日（金）9:00～17:00
会場①：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー
会場②：ありすの杜南麻布 1階 地域交流スペース
会場③：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー

◆第3期パネル展

日時：平成26年3月18日（火）～3月28日（金）9:00～17:00
会場④：港区役所 1階 ロビー（庁舎玄関を左手）

「麻布未来写真館」
「麻布未来写真館」第1期パネル展
平成26年2月7日[金] - 2月20日[木]
会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー
〔港区赤坂9-7-3 (東京ミッドタウン)〕
10:00-19:00 ※会期中無休、最終日16:00まで
※会場①：東洋英和女学院本部・大学院棟1階 史料展示コーナー
※会場②：ありすの杜南麻布1階 地域交流スペース
※会場③：港区麻布地区総合支所1階 ロビー
※会場④：港区役所1階 ロビー（庁舎西玄関を左手）
※会場⑤：港区役所は、土曜日・日曜日休み
※第3期パネル展では、第2期で展示したパネルを業約して展示します。
※お問い合わせ：港区麻布地区総合支所協働推進地区政策担当 TEL:03-5114-8812 [港区六本木5-16-45]

第1期パネル展ポスター

「麻布未来写真館」
「麻布未来写真館」パネル展
◆第2期パネル展
平成26年2月17日[月] - 2月28日[金] 9:00 - 17:00
会場①：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー
会場②：ありすの杜南麻布 1階 地域交流スペース
会場③：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー
※会場①：東洋英和女学院は、日曜日休み、最終日16:00まで
※会場②：ありすの杜南麻布は、日・木曜日休み、開場は10:00～16:30
◆第3期パネル展
平成26年3月18日[火] - 3月28日[金] 9:00 - 17:00
会場④：港区役所 1階 ロビー（庁舎西玄関を左手）
※会場⑤：港区役所は、土曜日・日曜日休み
※第3期パネル展では、第2期で展示したパネルを業約して展示します。
※お問い合わせ：港区麻布地区総合支所協働推進地区政策担当 TEL:03-5114-8812 [港区六本木5-16-45]

第2期・第3期パネル展ポスター

パネル展等の様子



フジフィルムスクエア ミニギャラリー



フジフィルムスクエア ミニギャラリー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



ありすの杜南麻布 地域交流スペース



港区麻布地区総合支所 ロビー



港区役所 ロビー



港区役所 ロビー

会場提供等、ご協力いただいた方々からのメッセージ

山本 佳之（フジフィルム スクエア 館長）

「麻布未来写真館」パネル展も恒例となり、多くのお客様に楽しんでいただけて、また開催を待ち望んでいただいている展示となりました。

展示された写真を拝見すると、我々にとって「ついこの間」であったはずの昭和が、すでに遠くなくなってしまったと改めて感慨深く感じました。きっと多くのお客様が、それぞれの想いを持ってこの展示をご覧いただいていると思います。

休むことなく変貌をつづけ、さらなる魅力的な街に進化している麻布の街。その時々を写真で残していくことは社会的文化的に極めて意義の高い事業であると思います。

私共も引き続き「麻布未来写真館」事業にご協力させていただきたいと存じます。

酒井 ふみよ（東洋英和女学院史料室）

麻布未来写真館の展示は2月の恒例行事のようになりましたが、毎回新しい「坂」の発見があって麻布の坂の多さに驚いています。

今回は特に、漫画やアニメに描かれた麻布のまち、というテーマでは、知らないうちに本校がモデルとなって描かれていることを教えられました。関連するコミックやライトノベルスを購入し、普段と違うイラストを並べた展示を工夫する楽しみもありました。

いつもと違う視点からまちの移り変わりを見る楽しみを教えてください。一方、確かにこの地にあり続ける学院として、記録を保存しつつ活用することの大切さを再認識する機会となっていることを感謝しております。

パネル展示にあたってのメッセージ

平成26年2月17日（月）からの第2期パネル展にあたり、会場提供等のご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で4回目の参加となりました。長年にわたりこの地で女子教育に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様方の温かいご理解、ご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・カートメルが麻布烏居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために1884（明治17）年に設立された学校です。今年で創立130周年を迎えています。また東洋英和幼稚園は創立100周年を迎えます。

幸いなことに、学院は太平洋戦争の空襲時にも戦火を免れ、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

このようなパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、地域の皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

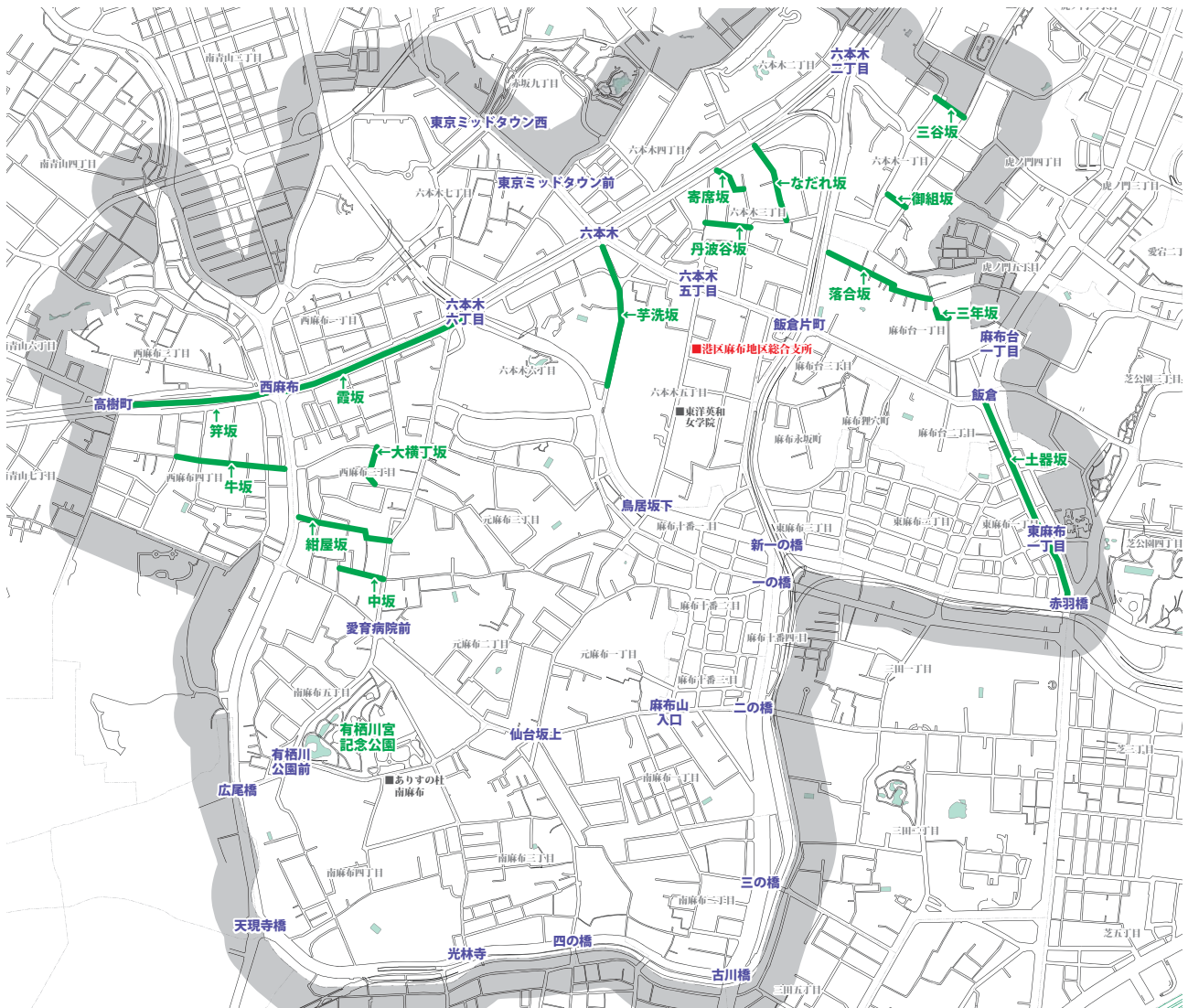
平成26年2月吉日
東洋英和女学院 理事長 水澤 郁夫
院長 深町 正信

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「Ⅱ. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



<写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。

麻布台と周辺の山坂 土器坂(かわらげざか)



昭和50年(1975年):土器坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年):土器坂 坂上から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年):土器坂 坂下から



平成25年(2013年)

このあたりに土器職人が住んでいたのが坂名となった。また、平安中期の武将渡辺綱が、ここで買い求めた馬が河原毛で名馬だったからという説もある。

大正の作家で、三田文学を復活した水上瀧太郎は土器坂上ロシア大使館辺りのお屋敷の子だった。「崖上から崖下の子供達を見つめる。一緒に遊びたいが気後れしている。熊野神社が子供達の遊び場所であった。」(『山の手の子』より)

参考資料: 港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏

麻布台と周辺の山坂 三年坂(さんねんざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 三年坂 坂上から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 三年坂 坂下から



平成 26 年 (2014 年)

坂の名前の由来は定かではない。江戸時代には無名の坂だった。まずこの坂があり、のちに石段になった模様。また、三年坂は別名「三念坂」などとも呼ばれ同じ名前の坂がほかに数箇所ある。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

麻布台と周辺の山坂 落合坂 (おちあいざか)



昭和 59 年 (1984 年) : 落合坂 坂標柱近景



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 落合坂 坂上から



平成 25 年 (2013 年)

我善坊谷へ下る坂で、赤坂方面から往来する人が、行きあう位置にあるので、落合坂と呼んだ。位置に別の説もある。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

六本木と周辺の山坂 三谷坂(さんやさか)



昭和50年(1975年): 三谷坂 坂上から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)
: 三谷坂 坂上から



昭和50年(1975年)
: 三谷坂 坂上から



平成26年(2014年)

アークヒルズの近くの坂で、坂下はもとの麻布谷町である。今「谷町」という名前は高速道路の谷町ジャンクションにしか残っていない。谷町より以前は今井三谷町と呼ばれていたようでこれが坂の由来であろう。

参考資料: 港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏

六本木と周辺の山坂 御組坂 (おくみざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 御組坂 坂上から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年) : 御組坂 坂下から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 59 年 (1984 年)
: 御組坂 標柱近景



平成 24 年 (2012 年)

江戸幕府御先手組 (おさきてぐみ : 戦闘時の先鋒部隊で、平時は放火・盗賊を取り締まるなどの治安維持等を務める) の屋敷が南側にあったので坂名となった。

御組坂下付近に永井荷風が住んでいた偏奇館があった (戦災で焼失)。

参考資料 : 港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影 : 田口政典氏、写真提供 : 田口重久氏

六本木と周辺の山坂 なだれ坂 (なだれざか)



昭和 59 年 (1984 年) : なだれ坂 坂下の景



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年) : なだれ坂 坂下を



平成 25 年 (2013 年)



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年)
: なだれ坂 坂下から



平成 25 年 (2013 年)

流垂・奈太礼・長垂などと書いた。土崩れがあったためか。幸国(寺)坂、市兵衛坂の別名もあった。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

六本木と周辺の山坂 丹波谷坂 (たんばだにざか)



昭和 59 年 (1984 年) : 丹波谷坂 標柱近景



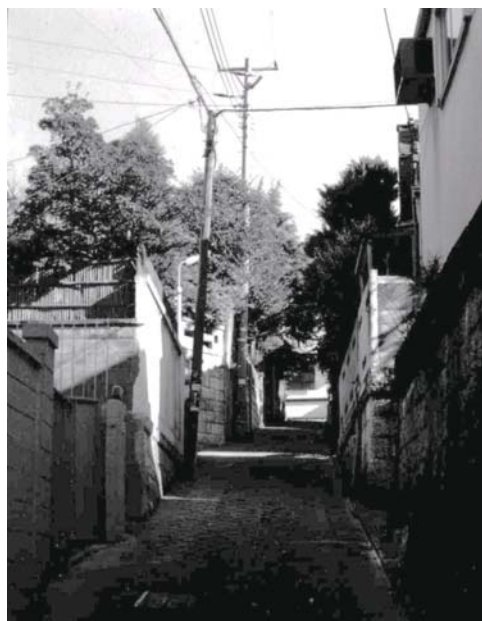
平成 25 年 (2013 年)



昭和 59 年 (1984 年)
: 丹波谷坂 板上から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年)
: 丹波谷坂 坂下から



平成 25 年 (2013 年)

元和年間 (1615 ~ 1623)、旗本岡部丹波守の屋敷ができ、坂下を丹波谷といった。明治初期この坂を開き、谷の名から坂の名称とした。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

六本木と周辺の山坂 芋洗坂(いもあらいざか)



昭和 62 年 (1987 年) : 芋洗坂 ストライプハウス美術館付近



平成 25 年 (2013 年)



平成 26 年 (2014 年)

正しくは、麻布警察署裏へ上る道をいったが、六本木交差点への道が明治以後にできて、こちらをいう人が多くなった。芋問屋があったからという。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

六本木と周辺の山坂 寄席坂 (よせざか)



昭和 57 年 (1982 年) : 寄席坂 坂下から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 57 年 (1982 年)
: 寄席坂 坂下を



平成 25 年 (2013 年)

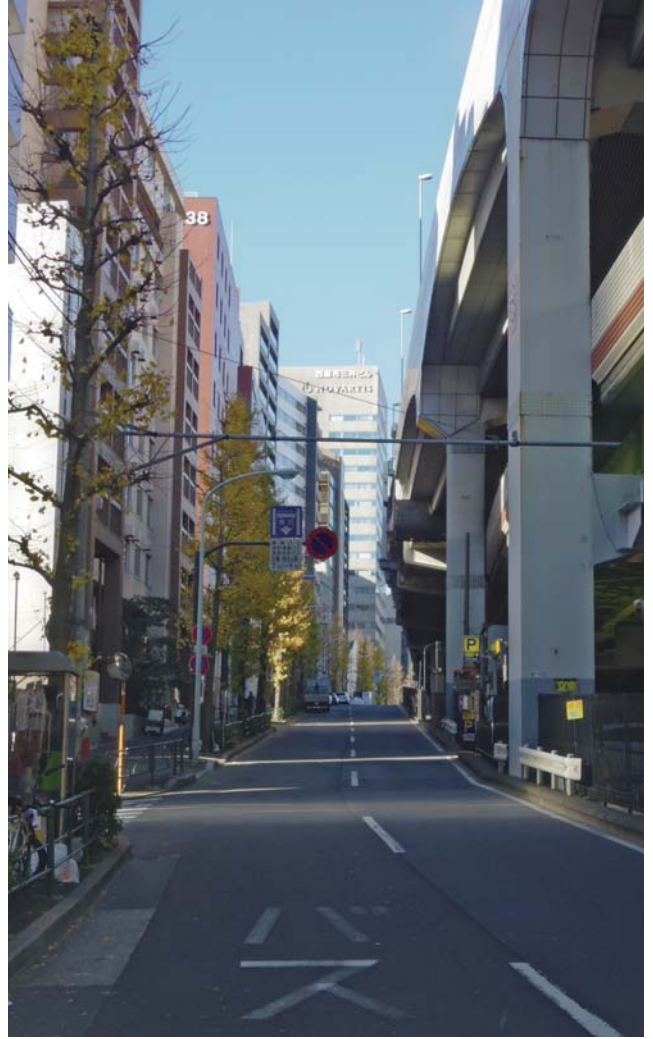
坂の途中の北側に明治から大正 3 年にかけて福井亭という寄席があったために、寄席坂とよびならわすようになった。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 筈坂(こうがいざか)



昭和50年(1975年): 筈坂 坂下から



平成26年(2014年)



昭和50年(1975年): 筈坂 坂上から



平成25年(2013年)

坂下を流れていた筈川の名からついた付近の地名によって、こう呼ばれるようになった。

参考資料: 港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 霞坂 (かすみざか)



昭和 59 年 (1984 年) : 霞坂 標柱近景



平成 26 年 (2014 年)



平成 25 年 (2013 年)

明治初年に霞山稲荷 (現在の桜田神社) から霞町の町名ができ、そこを貫通する道が明治 20 年代に開かれて霞坂と呼んだ。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 紺屋坂(こんやざか)：ごみ坂



昭和50年(1975年)：紺屋坂 坂下の景



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)：紺屋坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)：紺屋坂 坂上を



平成25年(2013年)

この坂付近に紺屋(染物屋)があったのでこう呼んだ。また江戸時代、坂のがけ下がごみ捨て場だったことからごみ坂ともいった。下ってゆくと筭(こうがい)小学校の正門に出る。正門の前は五叉路になっていて、角に2000年ころまで「こうがい堂」という文具店があった。文房具ばかりでなく、「たけひこ」や「きびがら」のような工作に使う品物もあり、筭小学校の児童は、皆ここのお世話になったものだ。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 牛坂(うしざか)



昭和50年(1975年):牛坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年)
:牛坂 坂下から



昭和59年(1984年)
:牛坂 標柱近景



平成25年(2013年)



平成25年(2013年)

源経基(平安時代中期の武将)や白金長者(室町時代に白金地区を開墾した柳上総介)の伝説がある筈橋に続く古代の交通路で、牛車が往来したためと想像される。

参考資料:港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 大横丁坂(おおよこちょうざか)



昭和 50 年 (1975 年) : 大横丁坂 坂上から



平成 25 年 (2013 年)



昭和 50 年 (1975 年)
: 大横丁坂 坂下から



平成 25 年 (2013 年)

江戸時代、この付近を俗に大横丁と読んでいたことからこの名が付いた。富士見坂とも呼ばれていた。

参考資料：港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

西麻布と周辺の山坂 中坂(なかざか)



昭和50年(1975年): 中坂 坂下から



平成25年(2013年)



昭和50年(1975年): 中坂 坂上から



平成25年(2013年)

テレビ朝日通りを西へ下る坂道。紺屋坂と北条坂の間にある坂。

参考資料: 港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>) など
このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影: 田口政典氏、写真提供: 田口重久氏

都電が走っていた頃(二之橋付近)



昭和42年(1967年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



平成25年(2013年)



昭和44年(1969年)



昭和43年(1968年)



昭和44年(1969年)



昭和42年(1967年)

このパネルに掲載されている古い写真については、写真提供：河村かずふさ氏

麻布と落語（おかめ団子）



平成 25 年 (2013 年)

「おかめ団子」跡。間口3間(約5m45cm)、奥行11間(約20m)の総2階という店は、いつも客であふれていたと、当時の繁盛ぶりが伝えられている。



平成 26 年 (2014 年)

団子屋こそないが、跡地周辺には10年、20年と“商い”をしている飲食店が少なくない。



昭和 39 年 (1964 年) : 六本木五丁目付近 (写真左端が飯倉片町)

古典落語には、麻布界隈が舞台として登場する噺がいくつかある。江戸時代から明治時代まで飯倉片町に実在した団子屋が舞台の「おかめ団子」。「井戸の茶碗」に登場する正直者のくず屋の清兵衛は、麻布谷町の住人として描かれている。これら二つの人情噺を通して、江戸からつづく麻布の歴史と今を訪ね歩いてみた。

おかめ団子(あらすじ)

飯倉片町の「おかめ団子」は、一人娘のおかめが美人の上、愛嬌があるとあって、たいそう繁盛していた。

ある風の強い日、そのおかめ団子が早めの店じまいをしていたところ、貧乏な身なりの男が一盆の団子を求めて店にやってきた。番頭は追い払おうとするが、客と知った店の主は招き入れ、その貧乏な身なりの大根屋、太助に団子を振る舞い、さらに太助が毎日母親のために買っていると聞き、礼として一包み包んだ。

家に帰った太助は、母親に団子を食べさせながら、固い布団のせいで体を痛がっている母にどうか柔らかい布団を買いたいと思った。先だっておかめ団子で団子を食べながら見たたいそうな顔の売り溜めを思い出し、母がいなくなってからは親孝行はできないと、その夜おかめ団子に忍び込むべく寒風吹く中出かけた。

途中、犬に追われたりしながらも、おかめ団子の庭先に入り、「さてどうしようか」と思ったちょうどその時、雨戸がすっと開き、おかめが庭先へ出てきた。そして、縁側から踏み台を出し、木の枝に帯を掛け首をくくろうとしたのを見て、太助は夢中で助けた。

無理に勧められた縁談をおかめはいやがっていたのだった。その騒ぎに気づいた主は助けに入っていた太助に顛末を聞いていたが、ふとなぜ太助がここにいるのか不信に思い事情を聞いたところ、太助は母に布団を買いたいのために盗みに入ったと正直に話した。主はその親孝行ぶりと正直さに感心しお金を渡して帰した。

その後、おかめは太助と一緒にいたいと言いだし、太助は団子屋の養子となり、おかめ、母親ともども幸せに暮らし、店は繁盛したという。



平成 23 年 (2011 年)

泉ガーデン上層階から、くず屋の清兵衛が住んでいたとされる旧麻布谷町の方を望む。住居表示はなくなったが、首都高速 3 号渋谷線と都心環状線の合流地点、「谷町ジャンクション」(写真中央)の名に残されている。



昭和 52 年 (1977 年)

旧麻布谷町の商店街。道路の左側が六本木 1 丁目 1 番、右が 1 丁目 3 番、上方の建物はスペイン大使館と思われる。



昭和 48 年 (1973 年)

旧麻布筆筈町北寄りの高台から旧麻布谷町を望む。上方に当時の霊南坂教会が見える。

井戸の茶碗 (あらすじ)

麻布谷町に住む正直者のくず屋の清兵衛が白金の清正公(覚林寺)の前を歩いていると、身形は粗末だが、どこか品のある若い娘に呼び止められた。娘について裏長屋に入ると、父親の浪人・千代田ト斎から仏像を二百文で買ってくれないかと頼まれる。もし売れたら儲けは折半ということで仏像を引き取った清兵衛。仏像を籠に入れ、三田の細川侯のお屋敷の窓下を通ると、窓から若い武士に呼び止められ、武士は仏像を三百文で買った。

煤けた仏像を武士がぬるま湯に漬けて磨いていると、台座の下に貼られた紙がはがれて小判五十両が出てきた。驚いた武士は売り主に返そうと思い、仏像を買ったくず屋探しを始める。清兵衛を見つけた武士は、「細川家の高木佐久左衛門」と名乗り、「仏像は買ったが小判を買ったおぼえはない」と、清兵衛に五十両を託しト斎のもとに届けさせた。

ところが、「売った仏像から何が出ようと、それはもう自分のものではない」とト斎も譲らない。見かねた長屋の大家が、高木とト斎とで二十両、残りの十両を清兵衛にとの妙案を示すが、ト斎は納得しない。「お金を受け取るかわり、先方になにか品物を差し上げてはどうか」との大家のすすめに、ト斎はいつも使っている父の形見の茶碗を高木に渡し、ようやく二十両を受け取った。

この美談が家中で評判になり、細川家の殿様が茶碗を見たいという。目利きの鑑定で「井戸の茶碗」という名器であることがわかり、殿様が三百両で買い上げた。おかげで清兵衛はまたもやト斎と高木の間を行ったり来たり。「娘を嫁に差し上げ、結納がわりなら金を受け取る」という条件でようやくト斎は折り合う。清兵衛がその条件を伝え、高木も娘との結婚を承諾。「よい娘です。磨けば美人になりますよ」「もう磨くのはよそう。また小判が出てくるといけない」。



氷川神社

『美少女戦士セーラームーン』

「愛と正義の、セーラー服美少女戦士、セーラームーン!」「月にかわって おおきよ!」というセリフで知られている。作者の武内直子氏の出身大学や勤務先が港区だったため、東京タワーやその周辺らしきものが頻繁に登場する理由とも言われている。

作中の「火川神社」は、仙台坂上に現存する「氷川神社」がモデルと言われている。また、「一の橋公園」は同名の公園がモデルとされている(平成26年2月現在、工事のため一時閉鎖中)。

【公式サイト】<http://sailormoon-official.com/>



ゲームセンターの元になったとも言われるパチンコ店があったあたり(麻布十番商店街)



主人公達も、このあたりで過ごしていたのではないのでしょうか?(麻布十番商店街)

『大正野球娘』

大正時代の架空の女子高で野球をする少女達の物語。主人公が通学していた道として鳥居坂が登場する。

また、実家は、麻布十番の洋食屋、看板娘として登校前と帰宅後などに調理と給仕の手伝いをしている設定が知られている。

【公式サイト】<http://www.tbs.co.jp/anime/taisho/>



通学路(鳥居坂付近)



古いレンガの壁(鳥居坂付近)



鳥居坂にある東洋英和女学院の建物



『東京マグニチュード8.0』
 防災に関係したアニメ作品。台場で大地震にあった主人公が、芝公園 - 東京タワーの近くを通って麻布付近から有栖川宮記念公園に向かう。災害時のリアルな描写が印象的な作品。
 主人公が歩いたと思われるルートから、①暗闇坂坂上付近、②たどりついた有栖川宮記念公園、③途中にある、麻布運動場脇の港区防災倉庫。
 【公式サイト】 <http://tokyo-m8.com/>

『ミラクル☆トレイン
 ～大江戸線へようこそ～』

大江戸線の駅が美男子キャラに擬人化されて、ストーリーが展開するアニメ作品。麻布地区からは、六本木駅、麻布十番駅、赤羽橋駅がキャラクターとなり何度も登場する。

キャラクターの名前は、駅の番号から付けられている。

23番 六本木 史(ろっぽんぎ ふみ) こと六本木駅

22番 麻布十番 双葉(あざぶじゅうばん ふたば) こと麻布十番駅

21番 赤羽橋 式人(あかばねばしにひと) こと赤羽橋駅

2009年10月～同年12月までテレビ放送されていた。

【公式サイト】 <http://www.miracle-train.tv/>



移築されて今も残る観測機器 (東京天文台)



昭和 35 年 (1960 年) 頃：東京大学天文学教室と日本経緯度原点麻布にあった東京天文台が三鷹に移転した後、東京大学天文学教室が設置された、写真⑩番の部分に建つ碑 (左下写真) が現在、経緯度原点の場所と考えられる。手前側はアフガニスタン大使館になっている。



平成 25 年 (2013 年)：日本経緯度原点現在の経緯度原点、整備され素敵な空間が広がっている。東京都港区麻布台 2-18-1



昭和 35 年 (1960 年) 頃この二つの柱の上に、観測機器が設置されていた。設置されていた観測機器は、関東大震災で被害を受けたが当時、東京天文台で使われていた機器は今でも三鷹の国立天文台に大切に保存され一般に公開されている。



ゴーチェ子午環
1903 年フランス製



レプソルド子午儀室



レプソルド子午儀、
国立天文台初の国の重要文化財
1880 年ドイツ製

東京天文台は明治 21 年 (1888 年)、麻布飯倉の旧海軍観象台の地に設立。初代の台長として寺尾 寿が任命された。明治 23 年 (1890 年) から子午儀室をはじめ太陽写真儀室、赤道儀室など次々と増築された。

その後、市街化が進み観測条件の悪化が進み、大正 6 年 (1914 年) 北多摩郡三鷹村大沢 (現在の三鷹市) に移転が始まり、大正 13 年 (1924 年) に一段落した。その後の建物・観測機械は東京大学理学部天文学教室の所属となり学生の講義・実習にあてられた。昭和 20 年 (1945 年)、戦災で焼失。その跡にバラックが建てられて、昭和 35 年 (1960 年) の本郷移転まで、この地に存続した。

日本経緯度原点は明治 25 年 (1892 年) に東京天文台の経緯度の観測台である子午環の中心に定められた。

その後、大正 12 年 (1923 年) の関東大震災で子午環が崩壊したため、昭和 36 年 (1961 年) にその位置に金属標を設置し日本経緯度原点を再現した。昭和 24 年 (1949 年)、原点数値は測量法施行令で規定され、わが国における経緯度の基準として測量、地図作成等に使用されている。

なお、日本経緯度原点は平成 23 年 (2011 年) 3 月 11 日に起きた東北地方太平洋沖地震により真東に 27 cm 移動したことが記され、その数値は同年 10 月 21 日に改定された。

(経度：東経 139° 44' 28" .8869、緯度：北緯 35° 39' 29" .1572、方位角：32° 20' 46" .209)

写真提供：国立天文台 (NAOJ)、資料提供：国土交通省国土地理院 (GSI)

移築されて今も残る建物（麻布区役所・三井邸）



明治後期～昭和初期：麻布区役所
資料：『港区議会史 通史編』



平成 26 年（2014 年）：六本木三丁目付近



平成 25 年（2013 年）：日本獣医生命科学大学

明治、大正時代の麻布区役所は、現在の港区六本木三丁目に建っていた。

この建物は明治 42 年（1909 年）に建てられた。

その後、昭和 10 年（1935 年）に、区役所を六本木五丁目（現麻布地区総合支所が建っている場所）に移すことになり、麻布区役所は新たに建てられた。

三丁目に残された木造の旧庁舎は、日本獣医生命科学大学（旧日本獣医畜産大学）が買い取り、武蔵境駅前の同大学本館として今も使われている。

つまり 105 年を経てまだ現役の建物である。

玄関のポーチベランダ部分が、円形から四角形へ、また全体にシンプルな感じになったが、シルエットに変化はなく、当初の形を残した貴重な建築といえる。



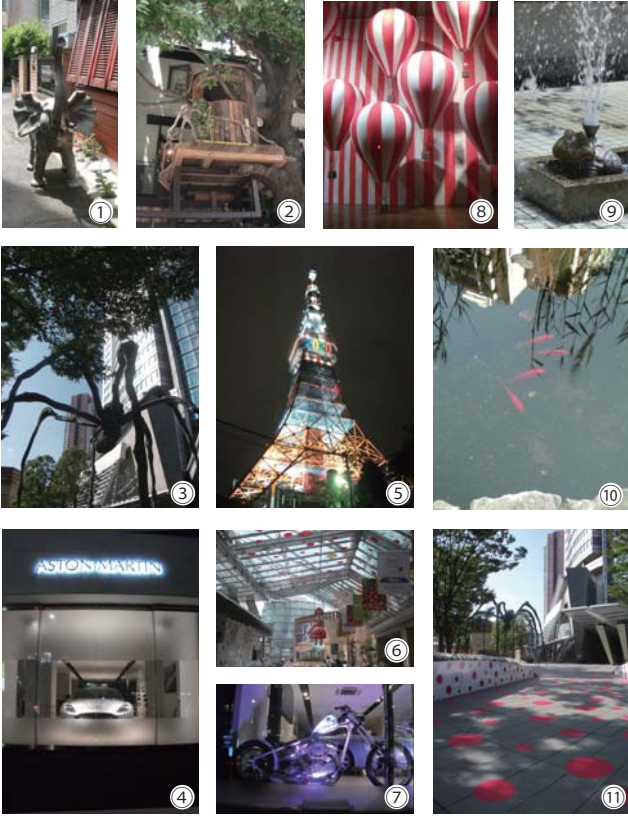
平成 25 年（2013 年）：三井八郎右衛門邸



平成 25 年（2013 年）：西麻布三丁目付近

西麻布三丁目、テレ朝通りから麻布税務署の角を外苑西通り方面に入ると、集合住宅のまわりをぐるっと一周する道が見れる。現在は集合住宅になっている場所には、昭和 27 年（1952 年）に三井第 11 代総領家当主・三井八郎右衛門邸があった。各地の三井家関連施設を部分的に移すことで構成された建物は、現在「江戸東京たてもの園」に移築・復元され、三井財閥繁栄の面影を知ることができる貴重な文化財として大切に保存されている。

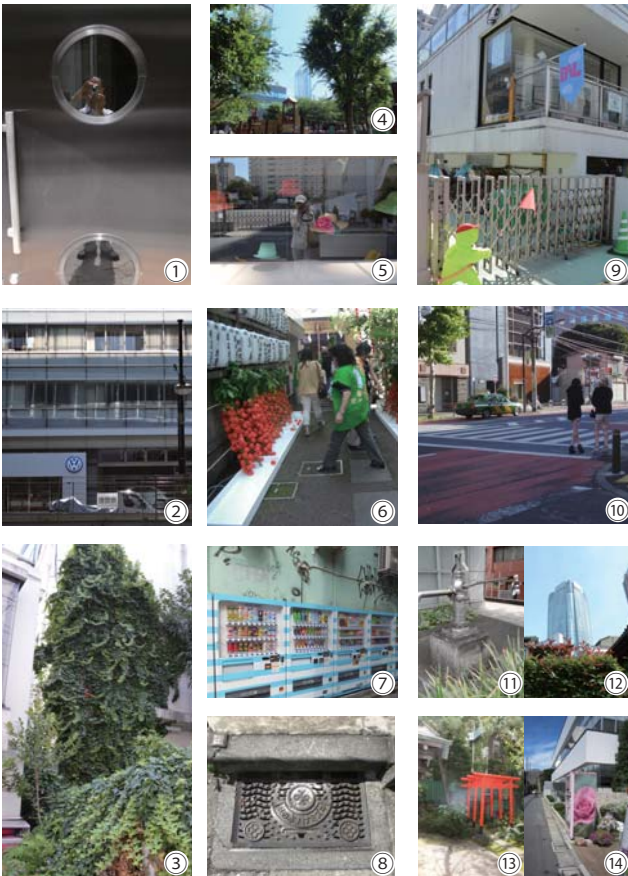
かわいい・素敵な@麻布



- ①：西麻布二丁目付近
- ②：西麻布付近
- ③：六本木六丁目付近
- ④：麻布台三丁目付近
- ⑤：東京タワー
- ⑥：六本木六丁目付近
- ⑦：麻布台三丁目付近
- ⑧：六本木六丁目付近
- ⑨：南麻布四丁目付近
- ⑩：六本木六丁目付近
- ⑪：六本木六丁目付近

撮影年：平成 25 年 (2013 年)

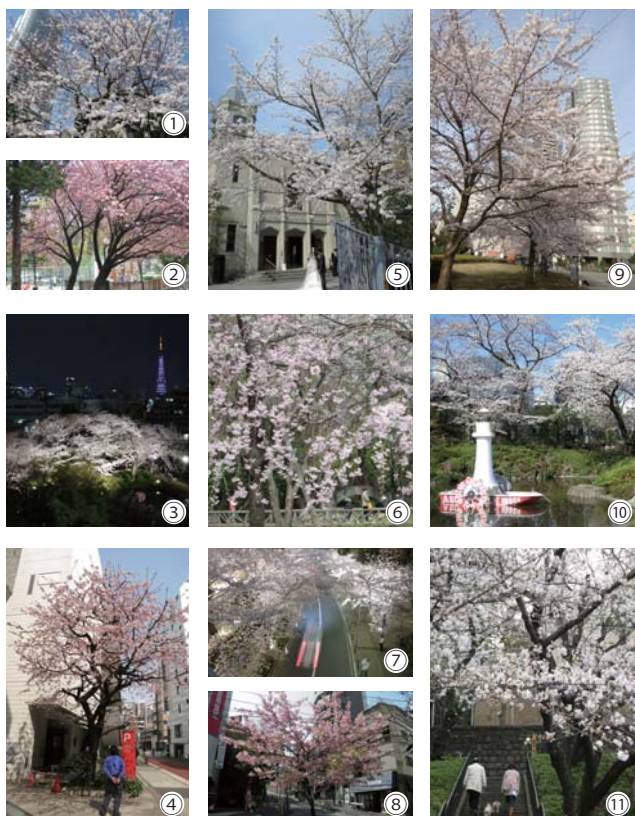
麻布の好きな景色



- ①：六本木七丁目付近
- ②：六本木四丁目付近
- ③：西麻布三丁目付近
- ④：西麻布三丁目付近
- ⑤：西麻布四丁目付近
- ⑥：六本木六丁目付近
- ⑦：西麻布一丁目付近
- ⑧：西麻布付近
- ⑨：西麻布三丁目付近
- ⑩：六本木五丁目付近
- ⑪：西麻布一丁目付近
- ⑫：元麻布三丁目付近
- ⑬：六本木七丁目付近
- ⑭：西麻布三丁目付近

撮影年：平成 25 年 (2013 年)

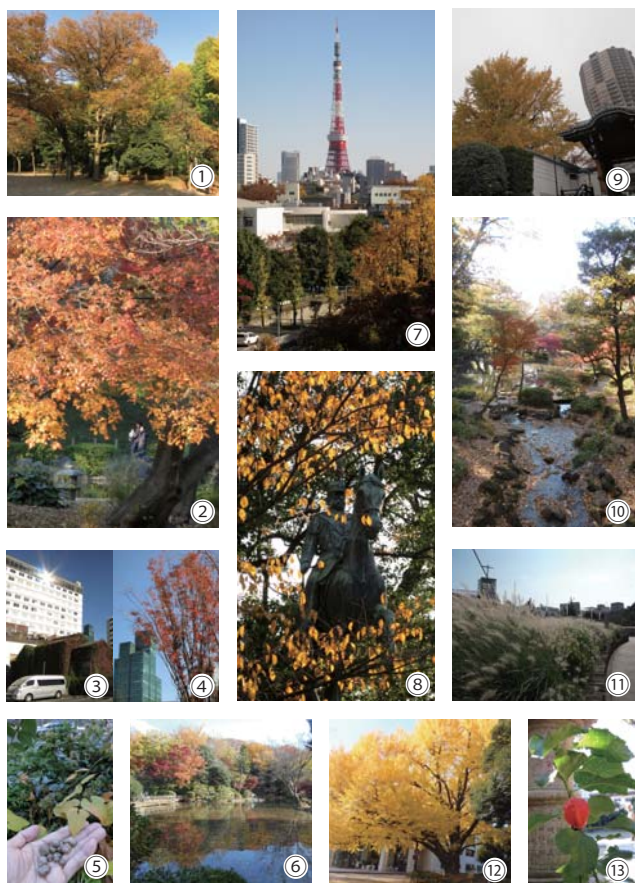
麻布 桜花



- ①：麻布台一丁目付近
- ②：西麻布一丁目付近（都立青山公園）
- ③：六本木六丁目付近
- ④：六本木五丁目付近
- ⑤：西麻布三丁目付近
- ⑥：有栖川宮記念公園
- ⑦：六本木六丁目付近（さくら坂）
- ⑧：麻布十番二丁目付近（暗闇坂下）
- ⑨：六本木七丁目付近
- ⑩：六本木六丁目付近（毛利庭園）
- ⑪：麻布台一丁目付近（雁木坂）

撮影年：平成 25 年（2013 年）

麻布 秋の色



- ①：有栖川宮記念公園
- ②：有栖川宮記念公園
- ③：六本木五丁目付近
- ④：六本木三丁目付近
- ⑤：六本木一丁目付近
- ⑥：有栖川宮記念公園
- ⑦：六本木六丁目付近
- ⑧：有栖川宮記念公園
- ⑨：元麻布一丁目付近（善福寺）
- ⑩：有栖川宮記念公園
- ⑪：六本木六丁目付近
- ⑫：南麻布五丁目付近（都立中央図書館）
- ⑬：六本木二丁目付近

撮影年：平成 25 年（2013 年）

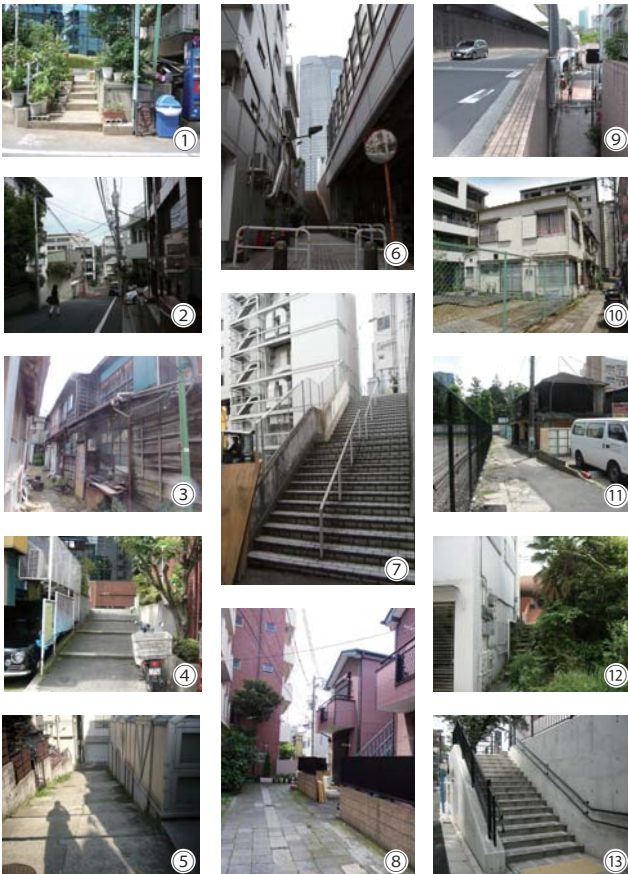
麻布の階段・抜け道 (六本木)



- ①：六本木五丁目付近
- ②：六本木三丁目付近
- ③：六本木三丁目付近
- ④：六本木四丁目付近
- ⑤：六本木六丁目付近
- ⑥：六本木五丁目付近
- ⑦：六本木三丁目付近
- ⑧：六本木五丁目付近
- ⑨：六本木六丁目付近
- ⑩：六本木六丁目付近
- ⑪：六本木六丁目付近
- ⑫：六本木五丁目付近
- ⑬：六本木三丁目付近

撮影年：平成 25 年 (2013 年)

麻布の階段・抜け道 (西麻布)



- ①：西麻布二丁目付近
- ②：西麻布一丁目付近
- ③：西麻布二丁目付近
- ④：西麻布二丁目付近
- ⑤：西麻布二丁目付近
- ⑥：六本木七丁目付近
- ⑦：西麻布一丁目付近
- ⑧：西麻布二丁目付近
- ⑨：六本木七丁目付近
- ⑩：西麻布二丁目付近
- ⑪：西麻布二丁目付近
- ⑫：西麻布二丁目付近
- ⑬：六本木七丁目付近

撮影年：平成 25 年 (2013 年)

今に残るまち並み、変わりゆくまち並み



麻布台三丁目付近



麻布台三丁目付近



麻布台三丁目付近



麻布永坂町付近



麻布永坂町付近



麻布永坂町付近



麻布台三丁目、植木坂付近



麻布台三丁目、植木坂付近



麻布台三丁目、植木坂付近



麻布台三丁目、鰐坂付近



麻布台三丁目、鰐坂付近

撮影年：平成 26 年（2014 年）

今年の麻布 — まちの話題



①



⑥



⑨

- ①：六本木交差点
- ②：六本木三丁目付近
- ③：西麻布交差点
- ④：六本木五丁目交差点
- ⑤：六本木交差点
- ⑥：日本経緯度原点から
- ⑦：麻布十番駅前
- ⑧：麻布警察署
- ⑨：外苑東通り
- ⑩：六本木三丁目付近
- ⑪：六本木四丁目（三河台中学校跡地）
- ⑫：六本木六丁目付近
- ⑬：六本木交差点



②



⑦



⑩



③



⑫



⑪



④



⑧



⑬



⑤



⑬

撮影年：平成 25 年（2013 年）

Ⅲ これまでの活動を振り返って

副座長 小山浩

45年振りの大雪の次の日、平成26年2月9日に麻布未来写真館のパネル展の打ち合わせで麻布十番に行きました。写真は当日のパティオです。当日は温かくどんどん雪が解けて道を流れて行くのですが、その流れが麻布十番の地形を表わしていて面白かったです。

とにかく古川方面へ流れて行く感じです。

麻布未来写真館の活動も5年が終了しましたが古い写真をご提供いただいた方も増えて、活動や呼びかけを継続することが大切だなと思います。節目の6年目も頑張ります。



メンバー 天羽大器

麻布未来写真館に参加して池、水脈、坂道と言った麻布の地形をテーマにしたパネルを作成してきた。

今年度は西麻布・六本木にある階段・坂道をテーマにしたパネルを作成した。

西麻布にある長谷寺の周辺を歩くと7か所も階段がある。六本木も六本木墓苑の周辺を歩くとやたら階段にぶち当たる。また、平成23年度に麻布未来写真館で作成した「今なお流れる麻布の水脈」と平成22年に区民まつりが発表した「川を造ろう！～港区の水源を探索～」を組合わせてエコプラザの講座「麻布のみなと歴史さんぽ～麻布の水源めぐり～」を企画した。麻布は今、再開発のラッシュである。谷がどんどん、なくなっている。建設の毎に遺跡調査が実施されている。こういった風景の写真を撮っていきたい。

ネットに麻布未来写真館で作成したパネルの公開する作業も始まった。より多くの人々に麻布未来写真館の活動をしてもらいたいと思っている。

来年度も変化する麻布の街並みをまち歩きしながら写真を撮っていきたい。未だ未だ麻布には色々なテーマが隠れている。

メンバー 荒澤経子



私は2013年に参加させて頂きました。

はじめての写真撮影の集合場所は西麻布の交差点でした。

集合場所でデジタル一眼レフのカメラを貸して頂き、一気にプロのカメラマンになったような気分になり、今日は土門拳のように写してみようと裏道の被写体に近づいては、さらに近づきアップの写真を何枚も撮ったように思います。

そんな写真の何枚かが、会議のスライドで映し出されると、悦の境地になりましたが、先輩方の写真には学ぶところは実に大でした。

記憶に残る写真を撮りに閑静な麻布台に連れて行って頂き、ブリヂストン美術館永坂分室を教えて頂きました。後日、一人でこの贅沢な邸宅の中で、選び抜かれた絵画・彫刻をみて至福の時間を過ごしました。麻布未来写真館に参加することで、思いがけない体験があり、私のイメージ力が育ち、文化芸術が学べ、心から感謝申し上げます。

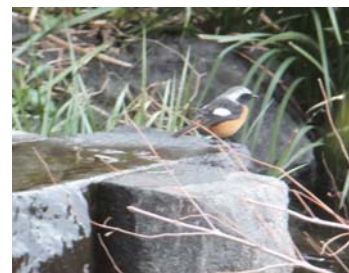
今後、ますます美しい町「麻布」を見守り、更にその未来に期待を申し上げます。

メンバー 入江誠

この一年は、主にご提供頂いた40年ほど前の写真を元に、その場所での撮影を楽しみました。大きく様変わりしている所も多いのですが、当時とピッタリと重なる場所にたどり着いて、その場に立った時の感動は計り知れません。

その当時を思い浮かべ、夢中で切ったシャッターの音は今も頭の中に残っています。

思うに、この30～40年の間に大きく変貌してしまった「あざぶ」にも驚かされるが、むなしささえ感じます。少しは不便さがあっても、歩く楽しみのある憩いの場所も残していく開発を望みたいものです。



毛利公園で見かけたジョウビダキ

メンバー 岡崎純子

昨年9月、2020年東京オリンピックの開催が決定しました。オリンピックに向けて、東京は大きく変貌していくことでしょう。

麻布地区も、どのように変わっていくことか……。変化していく麻布の様子と、これからも撮影し続けていけたらと思います。

六本木3丁目
(平成25年10月27日 まち歩き)



メンバー 櫻井綾

今年の麻布未来写真館の活動では、四季（特に、桜と紅葉）を意識したまち歩き（撮影）が行われました。とりわけ、例年桜の時期は事業の活動時期とタイミングが合わないため、メンバーによる自主的撮影も行われました。あいにく私は桜の



六本木通り越しに見つけた紅葉
(六本木2丁目方面)

撮影会に参加できませんでしたが、ため息をつくばかりの美しい桜の写真の数々が撮影されました。パネル用の写真選定では泣く泣く枚数を絞るという事になりましたが、結果的には厳選された桜と秋の紅葉写真のパネルが作成されていると思います。

数年単位で見れば、毎年同じように花をつけ、紅葉しているのかもしれませんが、数十年前、または数十年後はまた別の姿を見せているはずです。このような写真を残すことができたので、将来がまた楽しみです。

最後に、今年も子連れでの参加にご配慮・ご協力頂きました皆さまに深く感謝いたします。ありがとうございました。

メンバー 鈴木順二

麻布未来写真館の活動を通して、昭和の麻布をとらえた写真を数多く見る事ができました。

オリンピック以前の街の姿もありました。道路の中央に都電が走っています。自動車が少なく道は広々と感じられ、建物は今よりずっとこじんまりしています。空が広くどこまでも見渡せます。高層ビルは見当たりません。高速道路の高架もありません。ですから見通しがきくのです。

さて、街を歩いているとき、高いビルのないところに来ると、なんだかホッとします。

四方を囲まれたような閉塞感から解放されると、建物に反響する町の騒音が減るせいでしょうか。麻布はホッとできるまちであってほしいなと思います。



メンバー 椿由美子

麻布未来写真館のメンバーに加えていただくようになって4年。街のさまざまな表情をとらえることが楽しく、定例の街あるきのもとより、仕事帰りや週末など、幾度となくカメラ片手に“寄り道”しては、新しい発見にワクワクした記憶が甦ります。

パネルづくりに際し、旧町名の起源や変遷について調べようと手にした『江戸切絵図』に魅了され、時がたつのを忘れて見入ったことも楽しい思い出です。

今年度のトピックといえば、「2020」の窓文字とオリンピックカラーにライトアップされた東京タワーでしょう。飯倉片町の交差点や東麻布、六本木ヒルズなどから目にするたびに、胸をときめかせてきました。

未来に向けて、これからも移りゆく街の表情を記録にとどめてゆきたいと思います。

1年間、なにかと支えてくださった関係者のみなさま、そしてパネル展にお運びくださったみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。



メンバー 増子照孔

私が青山に住んでいた時は、六本木の夜は東京タワーが輝き低い家と暗い街並みで空が広がった。写真の未来館を夢みて参加しました。

時代と共に変わる麻布未来写真館に入ると古代の麻布の絵や明治・大正・昭和・平成の見える写真の中を歩く事を考えておりましたが、展示だけのマンネリ化した業務のように感じております。

住民も一部の人は知り、多くの人が知らない事を知り、名前だけが一人歩きしているようにも思います。

私は大変勉強になり有難いと思っていますが、もっと将来に向け目標を持ちたいと思う。

税金が形になる夢を持ち区民が楽しめる交流の場所になったら良いと思う。

メンバー 水野禮子

私達の住んでいる都心の最も変化の激しい町の景観や歴史的建造物を、建物については昔の写真と同じ場所を現在に対比してみても、高いビルが立ち並びすごく変貌しているのに驚いています。麻布地区は環境も良く、外国人も多く住んでいる町です。昔の写真収集やまち歩きをし、現在の写真を撮ってきており、新旧比較写真をパネルにし、フジフィルム スクエア、東洋英和女学院史料展示コーナー、ありすの杜南麻布、麻布地区総合支所ロビー、港区役所1階ロビーにて展示しました。



メンバー 横島久子

私の好きな家並

飯倉片町を左に下りた窪地の一角に、かつてのスペイン村があります。

いまだに残るこの家並と、またこの地域の上に位置する家並。それはやはり飯倉片町を一の橋方向に向かい、坂を登ったところが、植木坂、いたち坂に通じる路で、麻布台三丁目と麻布永坂町を分ける路でもあります。この道は車の交通も少なく静かな街並です。特に、この永坂台地の一角にある邸宅街の優雅な佇まいが好きです。

今、麻布の各地では開発が進められ、高いマンションに囲まれつつあります。その中で、このような家並を、佇まいを、いつまでも麻布の家並の一コマとして残して行きたいと願っています。

座長 近藤敏康

「麻布未来写真館事業」も5年目を無事終了する事ができました。これまで、この事業を支えてくださった、多くの関係者の方々をはじめ、貴重な古い写真をご提供くださった方々、パネル展においでくださった方々に改めて御礼申し上げます。

本年度は、昨年度のアンケートでご指摘いただいた点等も改善し、フジフィルム スクエアや、ありすの杜での展示パネル数を増加、さらに撮影場所をイメージしやすくする地図等の工夫も充実。その結果、多くの暖かいコメントをいただくこともできました。



また、港区内の図書館に加え、東京都立中央図書館でも歴代の「麻布未来写真館」の活動報告書を収蔵いただきました。いよいよ来年度より、インターネット上での常設展示もスタート、最初は限定した規模ですが、未永く麻布にまつわる写真や情報を追加し、多くの方々に愛していただけよう発展させていけるようご協力したいと思っております。

今年は、久しぶりの大雪で、翌日は多くの雪だるまを作るお子さんの姿を見受けました。白い麻布に出現したかわいい友達、そんな雪だるま達の一部をご紹介します。



幕末から現在まで、常に時代の変化の中心にいた麻布、そんな麻布を今後も撮影、記録し将来につなげて行きたいと思っております。

今後とも「麻布未来写真館」をよろしく願いたします。

講師 達川清

「六本木三丁目計画のバス停」

バス停に楽譜と詩が掲示されている。少年は好きな曲をイヤホンで聴きながら待っている。私はつい唄ってしまう。とても素敵な企画だ。道端の植込みにはムカゴが小さな小さな実を付けている。不思議な街、港区六本木。

「麻布未来写真館」のメンバーと共に毎回楽しく楽しく写真を撮りながら歩くと本当にゆかいです。皆、写真上手になりましたね！



IV 参考資料

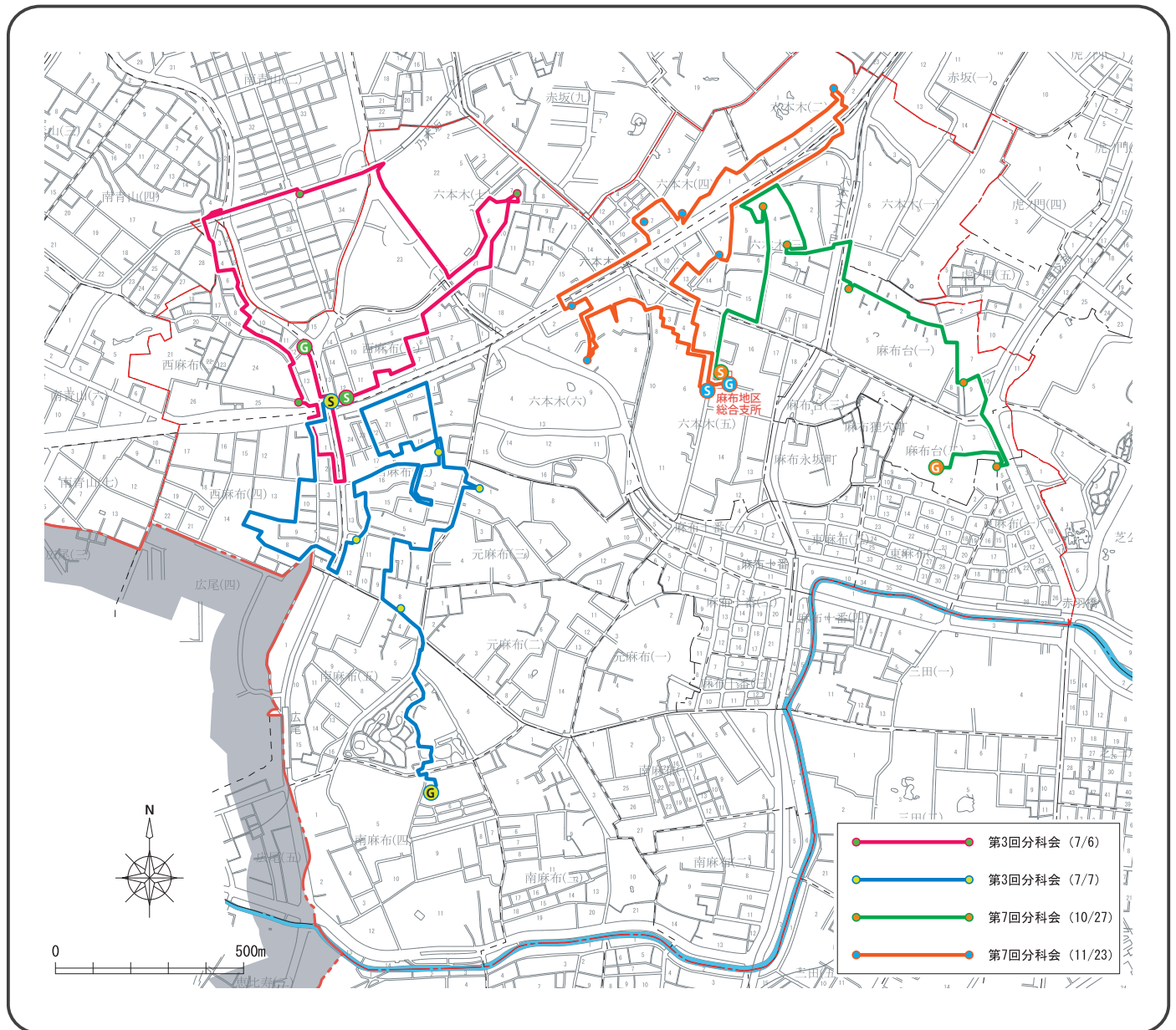
分科会活動記録（平成 25 年度）

平成 25 年	6 月 4 日	第 1 回分科会	（メンバー紹介、平成 25 年度の活動について）
	7 月 4 日	第 2 回分科会	（今年度の進め方、まち歩きについて）
	7 月 6 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影）
	7 月 7 日	第 3 回分科会	（まち歩き：第 1 回撮影）
	7 月 25 日	第 4 回分科会	（撮影結果・今年度の活動について）
	9 月 12 日	第 5 回分科会	（ウェブサイトについて）
	10 月 15 日	第 6 回分科会	（まち歩きについて）
	10 月 27 日	第 7 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影）
	11 月 15 日	第 8 回分科会	（まち歩き・パネル展について）
	11 月 23 日	第 7 回分科会	（まち歩き：第 2 回撮影）
	11 月 27 日	第 9 回分科会	（撮影結果・パネル展について）
	12 月 12 日	第 10 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
平成 26 年	1 月 14 日	第 11 回分科会	（パネル作成・パネル展について）
	2 月 4 日	第 12 回分科会	（パネル展について）
	2 月 7 日	パネル展	フジフィルム スクエア ミニギャラリー（～ 2/20）
	2 月 17 日	パネル展	東洋英和女学院 史料展示コーナー（～ 2/28）
	2 月 17 日	パネル展	ありすの杜南麻布 地域交流スペース（～ 2/28）
	2 月 17 日	パネル展	港区麻布地区総合支所 ロビー（～ 2/28）
	3 月 4 日	第 13 回分科会	（パネル展について・今年度の活動を振り返って）
	3 月 18 日	パネル展	港区役所 ロビー（～ 3/28）



まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちが真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 60 年 8 月 15 日

港 区

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成 25 年度 活動報告

刊行物発行番号
25263-1435

平成 26 年（2014 年）3 月 発行

発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課

〒 106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》：「増補 写された港区 三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～」港区教育委員会、港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると（<http://www.minato-ala.nrt/>）など
《古い写真等についての提供及び資料等》：港区立港郷土資料館、河村かずふさ氏、桜井昭一氏、田口重久氏、国立天文台（NAOJ）、国土交通省国土地理院（順不同）
《技術・会場協力等》：達川清氏（フォトグラファー）、フジフィルム スクエア（富士フィルム株式会社）、学校法人東洋英和女学院、ありすの杜 南麻布（順不同）

《表紙の写真》【左の写真】昭和 50 年（1975 年）：紺屋坂 坂下の景 写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏
【右の写真】平成 25 年（2013 年）



「麻布未来写真館」

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成25年度活動報告
港区麻布地区総合支所

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、
麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、
麻布のまちの変化を保存する取組として
「麻布未来写真館」事業を実施しています。